

## 香川大学大学院シラバス作成ガイドライン

平成 24 年 11 月 20 日教務委員会決定

(平成 26 年 12 月 17 日改訂)

(平成 27 年 9 月 28 日改訂)

(平成 29 年 9 月 19 日改訂)

## 1. シラバスについて

シラバスは、授業を選択する前の学生に、授業の内容、目的・目標、授業計画及び成績評価の方法と基準等を示す最大の情報源となります。各研究科では、「香川大学の各研究科の教育課程を修了した者として保証する最低限の基本的な資質」を示すディプロマ・ポリシー (DP) を定め、これを実現するための体系的な教育を行っていくこととなりますが、シラバスは、そのDPを実際の授業を通して実現していく指針を示す役割も果たします。

また、シラバスは、学生が授業を選択・履修して必要な能力を身につけるための指針となるものであり、授業を履修するために必要な事項を教員が学生に示すものでもあります。したがって、シラバスの内容のうち、「授業の概要」、「授業の目的・到達目標」、「講義の水準」、「対応するDP項目」など授業の根幹及び学生の授業選択等に大きく関わる基本的事項を授業開始後に変更してはいけません。授業計画等の他の項目についても、変更する場合には事前に学生へ事情を説明し、十分周知する必要があります。一方、学生にはシラバスをよく読んで授業の内容・方針を理解するとともに書かれている注意事項を守ることが強く望まれます。したがって、授業の最初にシラバスの内容を改めて説明するとともに、望まれる授業への参加態度など学生へのメッセージを伝えることも望まれます。

以上のように、シラバスは、香川大学の教育課程においてDPを実現する体系的な教育を行っていくうえで、重要な役割を果たすものです。さらに、シラバスは、学生のみならず、一般に公開することが求められています。どのような授業が、どのように行われているかが、学生だけではなく、広く社会の関心を引くことも考えられます。したがって、その作成には、細心の注意を払う必要があります。

## 2. 各項目の書き方

## (1) 授業科目名

英文併記とします。

## (2) DP (大文字アルファベット3ケタ)

その授業が重要な役割を果たすと考えられる、DPの構成要素を示すアルファベット (大文字) を重要なものから順に左から3つまで記入します (少なくとも1ケタ目は、各部局の教務委員会等で決定したもの)。該当するDPが2つ以下の場合には、残った部分にX (大文字) を入れます。

大学院課程の DP
A : 専門知識・理解
B : 研究能力・応用力
C : 倫理観・社会的責任
D : グローバルマインド
X : 該当なし

### (3) 提供部局 (大文字アルファベット1ケタ)

以下に示す大文字アルファベット1ケタを記入します。

G : 大学教育基盤センター
L : 教育学部・教育学研究科
J : 法学部・法学研究科
E : 経済学部・経済学研究科
M : 医学部・医学系研究科
T : 創造工学部／工学部・工学研究科
A : 農学部・農学研究科
S : 地域マネジメント研究科

### (4) 授業形態 (大文字アルファベット1ケタと小文字アルファベット1ケタの組合せ)

その授業科目をどのような方法で実施するかを、以下の項目から大文字アルファベット1ケタと小文字アルファベット1ケタを組み合わせて記入します。どのような授業か学生がイメージしやすいよう、その科目の主な授業スタイルを選択します。

L : 講義	g : グループワーク
E : 演習	p : PBL
P : 実験・実習	f : フィールドワーク
M : 講義+実験・実習 (医学部のみ)	e : フル e ラーニング
	b : ブレンディッドラーニング (反転学習等)
	x : 該当なし

### (5) 学習時間

授業時間と回数、並びに自学自習が必要である旨を記入します。1単位の授業科目は、自学自習を含めた一定時間の学修を必要とする内容をもって構成するものですから、自学自習に関する適切な指示が必要です。(「(10) 授業計画並びに授業及び学習の方法」で後述。)

香川大学大学院学則 (抜粋)

(授業科目及び単位数)

第 32 条 研究科の専攻における授業科目及び単位数については、研究科ごとに別に定める。  
2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行うものについては、その組み合わせに応じ、前 2 号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。

### (6) 授業の概要

授業の趣旨を記入します。その際、授業を行う教員を主語として、どのような授業を行うのか、わかりやすい文で具体的に書きます。

また、必要であれば、他の授業科目との関連を書くことも有効です。

### (7) 授業の目的・到達目標

授業の目的では、その授業の存在意義を書きます。この授業がなぜ必要かが明確となるよう記述します。教員または学生が主語となりえる文章では、学生が主語となる文章にします(教員が主語となるような文章は作らないようにします)。この場合、授業で学習した結果、何ができるようになるかを表す動詞を含む文章で書きます。ここで必ず書いていただきたいのは、DPとの関連性です。この授業がDPとどのように関連しているのかについて明示してください。その際、括弧書きで該当するDP項目を挙げてください(シラバス例を参照)。なお、DP項目は、優先順位の高いものを1つあるいは2つ記載してください。

一方、到達目標では、その授業を履修後に最低限身につけるべき資質を箇条書きで記入します。学生を主語とし、抽象的な言葉を用いずに行動目標で記述します。すなわち、学生を主語に、「○○できる」という形式の箇条書きの項目がいくつか記入されることとなります。

なお、授業の目的・到達目標について以下のような点に留意することが望ましいと考えられます。

- a. 授業の目的、到達目標ともに、学生が、履修後には「こんなことができる」「こんな知識を身につけている」というイメージを抱きやすいような内容にする。
- b. 授業の目的と到達目標とを対応させる。
- c. 到達目標では、一つの文に一つの目標を書き、複数の「目標」を混ぜない。
- d. 到達目標では、可能な限り、「理解する」などの概念的な表現ではなく、観察が可能な行動を示す言葉で表現する。

「授業の目的・到達目標」は、学生が科目を選択するうえで、どのような能力を身につけるのに貢献するものなのか、自分の関心や学力に見合った内容であるかなどの重要な判断材料となりますので、それらのことを念頭に置いて作成してください。

#### <授業の目的に使用する動詞の例>

知る 認識する 理解する 感じる 判断する 価値を認める 評価する  
位置付ける 考察する 使用する 実施する 適用する 示す 創造する  
身につける

#### <授業の到達目標に使う動詞の例(知識の領域)>

列記する	列挙する	述べる	具体的に述べる	説明する
分類する	比較する	例を挙げる	類別する	関係づける
解釈する	予測する	選択する	同定する	弁別する
推論する	公式化する	一般化する	使用する	応用する
適用する	演繹する	結論する	批判する	評価する
記述する	命名する	計画する	見つける	区別する
指摘する	選択する	測定する	分析する	配列する
系統化する	正当化する	合成する	分離する	計算する
質問する	帰納する	検証する	結合する	決定する
対応する	対照する	選別する	適合する	概括する
要約する	解釈する	描写する	叙述する	推論する
対比する	使用する	識別する	指示する	収集する
賛同する	発表する	報告する	暗唱する	再生する

判定する      確認する      求める      定式化する      証明する  
仮説を立てる

＜授業の到達目標に使う動詞の例（態度・習慣の領域）＞

行う	尋ねる	助ける	コミュニケーションする
寄与する	協調する	示す	見せる
表現する	始める	相互に作用する	系統立てる
参加する	反応する	応える	配慮する
討議する	始める	配慮する	相談する
受容する	協力する		

＜授業の到達目標に使う動詞の例（技能の領域）＞

感じる	始める	模倣する	熟練する	工夫する
実施する	行う	創造する	操作する	動かす
手術する	触れる	触診する	調べる	準備する
測定する	実施する	創造する	解剖する	注射する
操作する	打診する	聴診する	走る	跳ぶ
投げる	反復する	打つ	止める	入れる
防ぐ	かわす	持ち上げる	引く	押す
倒す	削る	切る	貼る	つなぐ
組み立てる	調整する	混ぜる	配合する	書く
描く	運転する	修理する		

- （出典） 1) 医学・歯学教育ワークショップ配付資料（富士研修所）  
2) 西之園晴夫『コンピュータによる授業設計と評価』、1986  
3) 西之園晴夫「多人数教育における実践知創造科目開発の方法論」、2002

（8）成績評価の方法と基準

何を以て成績を評価するのかを明記します。成績評価の基準は、学生から採点根拠を尋ねられたら、答えられるようなものにし、可能であれば数値で示します（小テスト25%、レポート25%、期末テスト50%等）。

なお、当然ながら、成績評価の観点が学んだ内容と関係ないものとならないようにします。

（9）授業計画並びに授業及び学習の方法

「授業の目的・到達目標」を実現する授業方法と内容を考えて計画を立てます。各回の授業について、どのような内容の講義を行うか、またはどのようなことを行うか明記します。ただし、授業の形態によっては1回ごとに内容を明記するのが難しい場合があります。そのような場合は、

第1回：・・・

第2～5回：・・・

第6回：・・・

といったような書き方をします。

「第〇回」や「第〇回～〇回」という記述が難しい場合、例えば「授業序盤・中盤・終盤」や「第

一段階・第二段階…」等の表現を用いて一連の文章で記述することも考えられます。

大学院では高度な学術理論や専門知識・能力、その応用等を学修するため、「授業の目的」がひとつであってもそこに至るアプローチ方法は学士課程に比べて多様といえます。それを「授業計画」にあらかじめ明記するのは難しいかもしれません。

しかし、「学生による討議・発表」「…を精読する」等の記載だけでは十分とはいえません。授業で行う学修の内容と方法、その一連の流れが具体的にイメージできる内容となるよう努めてください。例えば、何を題材に討議するのか、精読する教材はどのような内容か、一回あたりどの程度の分量を読み進めていくのか等について記述したり、発表・討議のテーマや教材を学生と相談して決める場合、過去の授業で扱ったテーマや教材、担当教員が考えるところの重要テーマや教材等を例示したりすることが考えられます。

自学自習に関する指示もここに書きます。特に前述のような発表・討議などを取り入れた授業を行う場合、予習の指示は、学生が必要な準備学習を行うなど授業を実施する環境を作るために重要です。

なお、授業計画に関しては、進捗状況との関係でやむを得ず変更が必要となる可能性があります。そのような場合は学生に確実に周知する必要があります。

#### (10) 使用する教科書・参考書等

教科書を使用するかどうか、使用する場合は書名、著者名、出版社、出版年、価格等を記入します。教科書・参考書を購入させる場合は、使用方法を明確にしておく必要があります。教科書・参考書を購入したが一度も使わなかったという事態は避けねばなりません。

また、大学院の授業では、学生が決定した発表・討議のテーマに応じて資料を用意することも考えられます。このような場合においても、可能であれば過去の授業を参考として、いくつか例示するなどすれば学生にとって授業がイメージしやすくなります。

#### (11) オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生が事前の約束なしでも研究室を訪問できる時間帯のことですが、いつでも対応するというのは事実上不可能で、それではオフィスアワーになりませんので、具体的に「○曜日○講目」「○曜日○時から○時」というように指定します。

＜以下の項目は、各研究科の教務委員会等で決定後、事務で記入します。＞

#### (13) 水準（大文字アルファベット1ケタと数字1ケタの組合せ）

その授業科目が教育課程上どの位置付けにあるかを、大文字アルファベット1ケタと数字1ケタの組合せで記入します。

B：学士課程	1：入門科目
M：修士課程（相当）	2：基礎科目
D：博士課程	3：応用科目
	4：統合科目
	0：その他の科目

#### (14) 分野（大文字アルファベット3ケタ）

その授業科目の分野を7ページの分野別コード一覧から選択し、大文字アルファベット3ケタで記入します。

(15) 対象学生 (数字1ケタ)

その授業科目の対象となる学生を数字1ケタで記入します。

1: 全学生
2: 提供部局に所属する学生のみ
3: 提供部局に所属する学生+受講を希望する学部学生
4: 提供部局に所属する大学院生+受講を希望する大学院生
5: 特定プログラムを履修している学生のみ
6: 夜間主コースに所属する学生のみ

(16) 特定プログラムとの対応 (大文字アルファベット1ケタ)

その授業科目が高度教養教育科目やネクスト・プログラム関連科目と対応しているかを、大文字アルファベット1ケタで記入します。

A: 高度教養教育科目
N: ネクスト・プログラム関連科目
M: 高度教養教育科目及びネクスト・プログラム関連科目
0: 対応なし

## ナンバリング分野別コードの一般ルール

- ① 本学の科目領域に依拠した区分から分野別コードを選択する。
  - ② ①が難しい場合に、日本学術会議の分野別委員会に依拠した区分から分野別コードを選択する。
  - ③ ①、②が難しい場合には、部局ごとに分野別コードを作成する。
- ※ 学部開設科目は、可能な限り①、②の分野別コードに割り当てる。

①本学の科目領域に依拠した区分	②日本学術会議の分野別委員会に依拠した区分
哲学・倫理学	哲学
芸術	—
心理学	心理学・教育学
社会学	社会学
教育学	心理学・教育学
歴史学	史学
文学	言語・文学
言語学	言語・文学
法学	法学
政治学	政治学
経済学	経済学
経営学	経営学
数学	数理科学
地球科学	地球惑星科学
物理学	物理学
化学	化学
生物学	基礎生物学・統合生物学
地理学	—
統計学	—
情報科学	情報学
医学	基礎医学・臨床医学
看護学	—
英語	—
初修外国語	—
日本語	—
健康・スポーツ実技	—
	地域研究
	農学
	食料科学
	健康・生活科学
	歯学
	薬学
	環境学
	総合工学
	機械工学
	電気電子工学
	土木工学・建築学
	材料工学

分野名称(①+②)	コード (半角大文字・英数3桁)	元の表記
哲学・倫理学	PHL	philosophy/ethics
芸術	ART	art
心理学	PSY	psychology
社会学	SCL	sociology
教育学	PDG	pedagogy
歴史学	HST	history
文学	LTR	literature
言語学	LNG	linguistics
法学	JRS	jurisprudence
政治学	PLT	politics
経済学	ECN	economics
経営学	BSN	business administration
数学	MTH	mathematics
地球科学	ERT	earth science
物理学	PHY	physics
化学	CHE	chemistry
生物学	BIO	biology
地理学	GEO	geography
統計学	STT	statistics
情報科学	INF	information science
医学	MED	medicine
看護学	NRS	nursing
英語	ENG	english
ドイツ語	DEU	deutsch
フランス語	FRA	français
中国語	CHN	chinese
韓国語	KOR	korean
日本語	JPN	japanese
健康・スポーツ実技	SPR	sports activity
地域研究	RGO	regional research
農学	AGR	agriculture
食料科学	FDS	food science
健康・生活科学	HLT	health/family and consumer science
歯学	DNT	dentistry
薬学	PHR	pharmacy
環境学	ENV	environmentology
総合工学	GNR	general engineering
機械工学	MCH	mechanical engineering
電気電子工学	ELC	electric and electronic engineering
土木工学・建築学	CVL	civil engineering/architecture
材料工学	MTR	material engineering

+

③部局独自分野	コード (半角大文字・英数3桁)	元の表記	提出部局
主題A	THA	theme A	大学教育基盤センター
主題B	THB	theme B	大学教育基盤センター
主題C	THC	theme C	大学教育基盤センター
アカデミックリテラシー	ACL	academic literacy	大学教育基盤センター
高度教養教育科目	LAA	liberal arts course (advanced)	大学教育基盤センター
広範教養教育科目	LAC	liberal arts course (comprehensive)	大学教育基盤センター
音楽	MSC	music	教育学部
保健体育	HPE	health and physical education	教育学部
高度教職実践科目	TPF	teaching professionals	教育学研究科
天文学	AST	astronomy	教育学研究科
公衆衛生看護学	PHN	public health nursing	医学部
養護学	SHN	school health nursing	医学部
分析方法論系科目	ANM	analytical methodology	地域マネジメント研究科
地域公共系科目	RPA	regional public administration	地域マネジメント研究科
地域公共系・経営系の融合科目	RGM	region & management	地域マネジメント研究科
その他	OTH	other	

### 3. シラバスのフォーマット

ナンバリングコード： 授業科目名 (時間割コード： )	科目区分	時間割	対象年次及び専攻
	水準・分野	DP・提供部局	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態	単位数	
担当教員名	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間			
授業の概要			
授業の目的			
到達目標			
成績評価の方法と基準			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
教科書・参考書等			
オフィスアワー			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

(シラバスの記載例)

ナンバリングコード:M2AGR-ABXA-60-Lp2 授業科目名 (時間割コード:123456) 園芸育種学特論 Advanced horticultural Breeding	科目区分	時間割	対象年次及び専攻 1年 農学研究科全専攻
	水準・分野 M2AGR	DP・提供部局 ABXA	対象学生・特定プログラムとの対応 60
	授業形態 Lp	単位数 2	
担当教員名 香川 一郎	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 植物品種、特に園芸品種の開発および変異の拡大法について解説するとともに、園芸作物の最重要形質の一つである色と病害抵抗性に焦点を当て、その発現様式と遺伝資源を活用した育種について最近の研究成果を交えながら解説する。また、それらの知識を活用して、課題解決のための議論を行う。			
授業の目的 有用形質を有する植物遺伝資源の活用は、食糧供給ならびに生活環境の改善における重要課題の1つである。本講義では、農学を修得した高度専門職業人として必要な知識・能力(DPの「専門知識・理解」に対応)の1つとして、園芸作物の遺伝資源利用と品種改良に関する最新の技術・知見を理解するとともに、それらの知識を応用し、現状の園芸作物の生産・品種開発における課題探求・問題解決ができる能力(DPの「研究能力・応用力」に対応)を身につけることを目的とする。			
到達目標			
1. 園芸作物の品種改良に関する最新の技術・知見を説明できる。 2. 園芸作物の品種開発に関する現状の課題に対して、対策を示すことができる。			
成績評価の方法と基準 レポート(50%)とディスカッションでの発表・検討の内容(50%)で評価する			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義には液晶プロジェクターを用いる。			
第1回 品種とは 第2回 遺伝資源と多様性 第3～4回 変異拡大の方法 第5～6回 色と色素の発現 第7～8回 育種目標としての病害抵抗性 第9～12回 ディスカッション (色の発現に関する品種改良について:Project-based learningを取り入れる) 第13～15回 ディスカッション (病害抵抗性に関する品種改良について:Project-based learningを取り入れる)			
以上の計画に関しては、進捗状況、内容の理解度等によって変更することがある。			
第1～8回は講義形式で行う。第1～4回は、植物育種に共通の事項であり、事前に関連事項について予習しておくとともに、関連する最新の論文を調べる。第5～8回は、特定の育種目標に関することであり、授業で紹介した文献を読むとともに、関連の事例を調べる。なお、第1～8回までの5項目については、項目ごとにレポートを課す。 第9～12回および第13～15回のディスカッションは、それぞれ第5～6回および第7～8回の質疑応答に加えて、講義内容に関連する課題を受け、学生自身が中心となって考えて、その課題解決に取り組む、Project-based learningを取り入れた形式とする。具体的な課題については、第8回までの授業時に提示する。なお、昨年度は「○○○・・・」と「△△△・・・」を課題として提示した。			
教科書・参考書等 講義に直接使用する教科書・参考書はない。必要に応じてプリントを配布する。			
オフィスアワー 木曜日13:00～14:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

現行 教育学部人間発達環境課程発達臨床コース

分類	備考	科目名	主たる分野
		発達支援論	教育学
基礎研究	課程共通	生涯発達心理学	発達心理学
基礎研究	課程共通	コミュニケーション論	政治学
基礎研究	課程共通	国際社会論	地理学
基礎研究	課程共通	多文化共生論	文学
基礎研究	課程共通	人間発達環境入門演習	学際(理・社・文)
基礎研究	課程共通	人間発達環境入門演習	学際(理・社・文)
基礎研究	課程共通	人間環境学Ⅰ	理学
基礎研究	課程共通	人間環境学Ⅱ	哲学
基礎研究	コース	臨床心理学	臨床心理学
基礎研究	コース	学校教育心理学	教育心理学
基礎研究	コース	カウンセリング概論	臨床心理学
基礎研究	コース	関係発達論	教育方法学
基礎研究	コース	社会福祉原論	社会福祉学
基礎研究	コース	児童福祉論	社会福祉学
基礎研究	コース	教育臨床心理学	臨床心理学
実践研究	コース	発達臨床実践研究Ⅰ	-
実践研究	コース	発達臨床実践研究Ⅱ	-
実践研究	コース	青年心理学(前)	発達・教育心理学
実践研究	コース	青年心理学(後)	発達・教育心理学
実践研究	コース	生活発達論	生活学
実践研究	コース	乳幼児心理学	発達・教育心理学
発展研究	コース	心理学史	心理学
発展研究	コース	学習心理学	心理学
発展研究	コース	教育心理学演習Ⅰ	心理学
発展研究	コース	教育心理学演習Ⅱ	心理学
発展研究	コース	心理学実験Ⅰ	心理学
発展研究	コース	心理学実験Ⅱ	心理学
発展研究	コース	心理検査Ⅰ	臨床心理学
発展研究	コース	心理検査Ⅱ	臨床心理学
発展研究	コース	教育統計学	教育学
発展研究	コース	性格心理学	心理学
発展研究	コース	社会心理学	心理学
発展研究	コース	臨床心理学演習Ⅰ	臨床心理学
発展研究	コース	臨床心理学演習Ⅱ	臨床心理学
発展研究	コース	生物共生システム論	生物学
発展研究	コース	臨床心理学実習Ⅰ	臨床心理学
発展研究	コース	臨床心理学実習Ⅱ	臨床心理学
発展研究	コース	障害児医学・生理学	医学
発展研究	コース	障害児心理学	障害児心理学
発展研究	コース	障害児心理アセスメント論	障害児心理学
発展研究	コース	高齢者福祉論	社会福祉学
発展研究	コース	地域福祉論	社会福祉学
発展研究	コース	小児発達論	医学
発展研究	コース	保育指導論	教育学
発展研究	コース	発達小児科学	医学
発展研究	コース	医学概論	医学
		発達障害児の教育と心理・生理	
発展研究	コース	生徒指導論A	教育学
発展研究	コース	生徒指導論B	教育学
発展研究	コース	こども・若者論	教育方法学
		メディア論	政治学
発展研究	コース	家族福祉論	社会福祉学
発展研究	コース	健康論	体育学
発展研究	コース	音楽環境論	音楽学
		芸術環境論	芸術
発展研究	コース	地域居住論	家政教育
発展研究	コース	生死文化論	歴史学
発展研究	コース	生命と倫理	哲学
発展研究	コース	ジェンダー論	教育学
発展研究	コース	異文化間コミュニケーション論	言語・教育
発展研究	コース	世界の言語と文化ⅠA	言語学
発展研究	コース	世界の言語と文化ⅠB	言語学
発展研究	コース	運動処方	体育学
発展研究	コース	発育・発達論	学際
発展研究	コース	福祉住環境論	社会福祉学
発展研究	コース	発達臨床演習Ⅰ	-
発展研究	コース	発達臨床演習Ⅱ	-
発展研究	コース	発達臨床特別演習	-
発展研究	コース	卒業研究	-

現行 医学部臨床心理学科

分類	科目名	備考
基幹科目	心理学概論	心理系
基幹科目	心理学研究法	心理系
基幹科目	心理統計法	心理系
基幹科目	心理学基礎実験Ⅰ	心理系
基幹科目	心理学基礎実験Ⅱ	心理系
基幹科目	臨床心理学	心理系
関連科目	早期体験学習(多職種連携)	医学系
関連科目	医学概論	医学系
関連科目	解剖学入門	医学系
関連科目	生理学入門	医学系
関連科目	生化学・分子生物学入門	医学系
基幹科目	学習心理学	心理系
基幹科目	認知心理学	心理系
基幹科目	生理・神経心理学	心理系
基幹科目	生涯発達心理学	心理系
基幹科目	青年心理学	心理系
基幹科目	障害者(児)心理学	心理系
基幹科目	教育・学校心理学	心理系
基幹科目	対人関係論	心理系
基幹科目	家族心理学	心理系
基幹科目	社会・地域・集団心理学	心理系
基幹科目	福祉心理学	心理系
基幹科目	司法心理学	心理系
基幹科目	産業心理学	心理系
基幹科目	心理アセスメントⅠ	心理系
基幹科目	心理アセスメントⅡ	心理系
基幹科目	人格心理学	心理系
基幹科目	医療心理学	心理系
基幹科目	カウンセリング概論	心理系
基幹科目	人間性心理学	心理系
基幹科目	心理師実践職能論	心理系
基幹科目	心理面接演習Ⅰ	心理系
基幹科目	心理面接演習Ⅱ	心理系
基幹科目	心理臨床実習	心理系
基幹科目	社会医学・関係行政論	社会学系
基幹科目	社会福祉論	社会学系
基幹科目	心理援助職のための内科的疾患概説	医学系
基幹科目	発達小児科学	医学系
基幹科目	精神医学	医学系
基幹科目	心身医学	医学系
基幹科目	生命倫理学	医学系
基幹科目	チーム医療実習	医学系
関連科目	病理学・免疫学概説	医学系
関連科目	微生物学・医動物学概説	医学系
関連科目	災害医学・緩和ケア	医学系
関連科目	医療薬理学	医学系
関連科目	教育原論	教育系
関連科目	障害児心理学	教育系
課題研究	臨床心理学基礎研究Ⅰ	ゼミ・卒業研究
課題研究	臨床心理学基礎研究Ⅱ	ゼミ・卒業研究
課題研究	臨床心理学研究Ⅰ	ゼミ・卒業研究
課題研究	臨床心理学研究Ⅱ	ゼミ・卒業研究
課題研究	卒業研究	ゼミ・卒業研究

☆

☆

☆

☆

☆

☆

☆

○本計画は、医学部臨床心理学科の学年進行終了をまたずに、医学系研究科に臨床心理学専攻(修士課程)を設置する計画である。

臨床心理学専攻は、臨床心理学科を基礎とする。よって、受験者に求める能力は、臨床心理学科(のDP)を主たる内容と想定する。

しかし、当面(2年間)は、教育学部人間発達環境課程(発達臨床コース)の卒業生を主たる受験者として想定する。

臨床心理学科のカリキュラムは、人間発達環境課程(発達臨床コース)との連続性を踏まえて策定したものである。

相互のカリキュラムを比較すると、心理学、福祉関係科目は共通するが、医学系科目の開設数の大きなひらきがある。

○人間発達環境課程(発達臨床コース)からの入学者を受け入れるにあたっては、入学前に医学関係の基礎知識の学習を促す手段を講じる必要がある。また、多職種連携に関しても、臨床心理学科と比較して人間発達環境課程はその内容が薄いことは否定できない。医学と合わせて入学前の学習を促す方策を採る。